

います。

手織りを始めて十年目、一生続けられる手仕事、ささやかな仕事場を思い描いて、ついに「夢織工房」を誕生させた天野さんは、「期待と不安はあるけれど、頑張ってやり抜くしかない。」と、現在の心境を語ってくれました。夫の死というアクシデントを乗り越え、家族の応援、手作りの仲間の応援を受けて今日も夢を織り続けています。

## 社会づくり

学習で活動の方向を確かめる

### ホーム・ケア・センターをつくりたい

つくりたい

平松節子さん

(浜松市)



学びたい人のために

県婦人課では「婦人のための静岡県計画」に基づき、左記の講座、セミナーを主催していますのでお問い合わせください。

「現代社会と女性」セミナー

婦人問題通信講座

県婦人課啓発スタッフ

〇五四二―二二―二二三四

平松さんは、地元の蒲地区生活学校で活動しています。三十代のころ九年間婦人学級で学習し、学級長も何度もするほど前向きだったのですが、知識が増えるだけの学習ではもの足りず、この生活学校に入ったのです。「そこでよき先輩に出会えました。人柄と実行力がグループの社会的な行動を支えているのですね。その方から、課題をみつける目や実際に解決に向けて行動すること、まわりに進んで話したりやってみせて広げていくことを学びました。」と、生き方のモデルに出会えた喜びを語ります。

生活学校では高齢社会の学習について、「私の町内でアンケートをとると、八〇%が『若い者と同居を』、『介護は家の人で』と望ん

でいます。町内には老人も多いので、緊迫感があります。」と、身辺から問題を探し取り組む姿勢がうかがわれます。

さらに、市内のこうしたグループが手を結び、「高齢社会を迎えるネットワーク浜松」を発足させました。蒲地区生活学校を含めた五グループがこの準備のために学習を重ね、現在は、高齢社会への対応という共通点を持った市内十六団体が集まって学習をしています。

その内容は、福祉理論から介護教室などの体験学習まで幅広く、「専門家や他の人の力も借りながら、年寄りを大切にしたい。『隣のおばあちゃんは何をしているか知らないなんて恥』という間柄づくりをしたい。」と抱負を語ります。

「高齢社会を迎えるネットワーク浜松」の目標は、ホーム・ケア・センターをつくることです。実際に、老人ホームや託老所、情報を集めた生きがいセンターを見学しました。

その中で「自分たちですぐできることは」と考え、蒲地区では月に一度、託老を始めたそうです。

「『ネットワーク浜松』でいろいろな考えをきき、活動の方向を確かめたい」と、学習に期待する平松さんです。

仕事を通して学ぶ

人との出会いを大切に!!

橋本裕子さん

(三島市)



橋本さんは、女性でも個性と能力を認めてもらう人生を送るべきだという思いから、弁護士になりました。昭和五十年に熱海市に事務所を開いた時には、女性弁護士としては静岡で二人目でした。開業したころ、橋本さんはまだ若く女性ということもあって、依頼者は戸惑っていたようです。

弁護士というのは、法律知識があればよいというものではありません。個々の事件によって法律を単純に当てはめるといいうわけにはいかないのです。それは、適用さ

れる法律が違うことや、同じ法律を適用する場合でも事実関係は同一ということはないからです。

また、弁護士は依頼者がなければ成り立っていきません。ですから、実務経験とともに、依頼者との対応をひとつひとつ積み重ねていくことが勉強となりました。橋本さんは依頼者に信頼される弁護士になるために、常に努力しました。

さらに、人との出会いが人間として大きく成長させてくれました。女医の竹内静香先生からは、先生の生き方を通して、職業を持った女性の生き方を学びました。また、脚本家の橋田寿賀子さんとの出会いによって、感情表現の方法や話題の広げ方などを学びました。

現在は、時代の変化に伴って、外国人の依頼者も増えていきます。そのために、週に一度事務員さん共々英会話を学んでいます。さらに、月に一度、三島市の自宅で茶道を習っています。仕事の息抜きでやっているといっても、茶道から生け花や焼き物、書などに話題が広がり、人との交流に大変役立っているそうです。

橋本さんは、人との出会いや付き合いを大事にして、その中で自身の人格を磨いています。それと

同時に、「私は周りの人たちに育てられてきたと思います。これから、仕事で生きていきたいという女性を応援する側にならなければ……」と言っています。

女性が認めてもらえる社会により近づくようにと努力している様子が伝わってきました。終始、明るい笑顔を絶やさない橋本さんは、生き生きと輝いて、とても魅力あふれる弁護士さんでした。

学習を生かしてグループをつくる

## 布絵本作りから

### 老人介護へ

藤下晶子さん

(清水市)



藤下さんのボランティア活動は、七年前に清水市中央公民館で開かれた「婦人ボランティア養成講座」

を受講したことから始まります。そこで一年余りにわたって、講義、施設の見学、体験学習、手話、点字の手ほどき、布絵本作り等の講座を受け、終了後、講座生たちと「布絵本の会」を結成しました。

布絵本は、印刷された絵本と異なり、布、フェルトなどを素材とし、マジックテープやボタンなどで、取ったりはめたり動かすことができる、遊びの要素を多く持った絵本です。特に、情緒の安定、指先の訓練に役立ちます。作る楽しさ、珍しさも手伝って、オリジナル作品を次々と制作しました。

「布絵本の会」の作品は、市内障害者施設、市立病院、中央公民館、障害者福祉センター内のおもちゃ図書館で活用され、多くの子供たちに喜ばれています。

このグループの活動を続けながら、藤下さんは、さらに市社会福祉協議会主催の「地域福祉ボランティア講座・初級」を受講、一年間学んだ後、中級に挑戦しています。

「自分もいずれは老人となり、人の世話を受ける側になるでしょう。核家族が進み、女性の社会進出の進む中で、嫁や家族が老人のすべての世話をすることは不可能だと思えます。老人は施設に入

るよりも、慣れた環境の中で静かに暮らす方が幸せです。そのためにも在宅老人の介護のお手伝いをしていきたいのです。」と、熱い思いから講座生と在宅介護問題研究会「泉の会」を結成しました。

このように、ボランティア講座で学び、友を得、グループを作り、家族の協力と理解を得て、老人介護問題に取り組むに至った藤下さん。脳血栓で倒れ、寝たきりになってしまった舅の世話を三年間続けてきた体験を持ち、子育てが一段落した時、この体験が自分の人生を変えていくような予感があったと言います。現在、清水市障害者福祉センターで、少しぼけの始まった老人の介護を手伝い、布絵本作りも続けています。静かに語る言葉の端々に、ボランティア活動への並々ならぬ闘志が感じられました。

### 学びたい人のために

福祉に関心のある方は左記へ

静岡県ボランティア協会

○五四二―五五―七三五七

静岡県社会福祉協議会

○五四二―五四―五二四八

又は各市町村社会福祉協議会へお問い合わせください。

●20代

### おじいちゃん 子守をたのむ

子供のことで悩んでいて、この講座に参加しようと思ったら託児設備がない。おじいさんに無理をいって二人の子を頼んだ。内容もよかったし、思いきって参加しただけのことはあった。

でも、幼児を持つ親の参加はやはり少なく、親同士の交流の機会もなかったのが残念だった。  
(親業講座に出てみたら)



# クーマン スクランブル

……ちょっとお耳を拝借いたします……

学習会 ……に出てみたら 《学習をはじめた女性たちのひとこと》  
講座

●40代

### 身のまわりを考える学習を さがしているのですが

人口の少ない私の村をみても、手入れの行き届かない田畑、山林、変色して流れている河川。未来を託す子供たちに十分なことをしてやっているのだろうかと不安です。こういう身近にある問題は、PTAの講座などではとり上げていないんですね。どうすればいいのでしょうか。

(PTA講演会に出てみたら)

### 「今だから」

### 机に向かつて

二十余年余の会社勤めにピリオドを打ち、社会との接点にと、五月

目標は

### 一生の仕事(ほんまじ)

商社に勤めながら、夜間のフラワーデザインスクールに通っています。そこでは様々な年齢の女性たちが真剣な表情をして、ひたむきに学んでいました。ピンと張りつめた空気に、デザインの技術以上に、そこで何かいろいろなことを学びとった気がします。目標はフラワーデザインを一生の仕事にすること。夢に終わるかも知れませんが、今何か生き方を学んでいるという感じです。  
(夜間スクールに出てみたら)



### 託児があるから

転勤してまわりに知人もいないし、託児があるというのでともか

から県立農業高校での学校開放講座を受講させていただいています。

現役の高校生が学んでいる机で、諸先生方の専門分野での心のこもった講義。自分が高校生に戻ったように楽しい。年輩の方とも机を並べ、いろいろな出会いもあります。先日新聞でこんな言葉を知りました。

「『今だから』でなく『今だから』忘れずにいたいと思います。  
(学校開放講座に出てみたら)

●50代

### 支え合える 友達を得たい



農村の嫁として、田畑を耕し、舅姑につかえ、子育てして三十数年。将来のことや趣味など考えずに生きてしまった。今、親がリユーマチで動けなくなると、初めて、老後のあり方を考えるようになった。

でも、こんな田舎で何をしたらいいのか、自分に何ができるのかもわからない。老いてなお張り合いのある暮らしと、老いても支え合える友達を得るために、手芸教室に参加している。  
(農協婦人手芸教室に  
出てみたら)

く参加したの。託児室で出会ったお母さんたちと親しくなって、友人をつくるきっかけになったわ。  
(すくすく学級に出てみたら)

●30代

### パートを休んでも続けたい

いろんな年代の人がいて、話し合いの最後に講師の専門的な話がある。それが自分の心を見直すことになっておもしろい。五、六年たつと、働きに出る人も半数になってきた。みんな月一度なら仕事を休んでも続けたいから、曜日の変更をしようと決めたところだ。  
(読書会に出てみたら)

### やってみたいものが広がる

情報がほしくてとにかく出てみたくて。親子三代の運動会など楽しかったけど、特別「学習した」と感じていません。でも、家を出て何かをしようというきっかけにはなりましたね。今、栄養学級にも行っています。そしたらそこ前の講座で会った人がたくさんいました。みんな私と同じですね。やってみたいものって、こうやってまず出ること広がるんですよ。  
(婦人学級に出てみたら)



### 気安いけれど満足には…

ある程度の期待を抱いて参加したが、内容が今一つの足りない。誰でも参加できる気安さばかりで、質とか会員の学習意欲ともに満足できなかった。といって遠方に通うにはお金がかかるし。近くに鎌倉彫りをする人が越してきたので、習おうと考えている。  
(婦人学級に出てみたら)

●60代

### 少しでも若く 少しでも美しく

私たちの集まりは夜七時半からなので、勤めの人も来てとてもにぎやかです。年齢もいろいろで、体操、童謡、手芸と楽しく勉強し

家事が気になる

自分たちで学習計画もつくって積極的にやっているつもり。ただ、夫には趣味としかわかってもらえない。だから、家を出るとき家事が中途半端なのが気になる。夫の目で見回してしまおう。これが、自分を自分で女の役割に縛っているのかな。  
(自己成長講座に出てみたら)

### 無料なのありがたい

少人数なので緊張したけど、講師の先生と親しく話ができうれしかった。無料だったし、他の人の意見をきく機会はなかなかないから、参加してよかった。  
(児童文学講座に出てみたら)

…女性が望む 講座は…

女性を対象に「わたしらしい自然な生き方」を共に学ぶ講座を設けています。参加する方は、学ぶ内容と、自分が話せる場所があることと、両方があつてうれしいと言ってくれます。  
(学習講座を主催する  
女性グループ)

●70代

### 仏教の句に親しみて 老いの秋

田舎のつき合いでなんとなく参加していた俳句の会が、念仏の会とともに、つれあいを亡くした私の心よりどころになってきました。年寄り同士、共通の話題を持つ仲間とのやりとりに、寂しさむなしさをひととき忘れることができます。  
(俳句会に出てみたら)

都市と農山漁村、あるいは年代によって感じ方も様々です。

そこからみえてきたのは、託児・料金・時間・テーマが主婦にとって一つのポイント。友人、生きがいは、学習の中で出会いたい人生の大切な彩りということでしょうか。

# 婦人問題を 通信講座で学ぶ

第二回婦人問題通信講座 開講式  
とき 平成元年7月1日(土)  
ところ 静岡県総合社会福祉会館

七月一日(土)、静岡市で婦人問題通信講座の開講式が行われました。県が、婦人問題を学習したくても条件が整わない人々に開放した全国初の試みです。テキストにより自宅学習し、課題についてレポートを提出すると講師の先生方から講評を受けられます。式では、五つのテーマにそって約二時間のミニ講座が開かれました。各講座の内容を簡単に御紹介します。

## 美尾浩子

静岡県立大学教授  
専門 言語学・婦人問題  
昭和十一年 静岡県生まれ



## 婦人の現状

女だからという理由で差別され、行く手を閉ざされるといふ屈辱を、私たちはたびたび体験してきました。次の世代の女性のために少しでも可能性を広げてあげたいとい

う思いで、私は婦人問題にかかわり続けてきたのです。今や日本も世界の流れを受けて、労働省「婦人週間」のキャッチフレーズを「女が変わる 男が変わる 社会が変わる」とするほど、男女の社会参加の形は量より質の時代に入ってきました。自分の現状を観察、分析し、それを実践につなげることを期待しています。

## 横井 孝

静岡大学助教授  
専門 国文学  
昭和二十四年 東京都生まれ



## 婦人の歴史

受講者の中に「歴史なんか必要ない」と書いてきた人がいましたが、過去を知ることによって未来が予測できるのです。そして現状も見えてくるのです。家制度に代表される制度の重さ

を学んだとしたら、それを現在のあなたが抱えている問題に対処する時の戦略として活用して下さい。有名な女たちの顕在化した歴史の中にある、名もない女たちの潜在化した歴史を読みとってほしいと思います。

## 馬居政幸

静岡大学助教授  
専門 教育学・社会学  
昭和二十四年 徳島県生まれ



## 現代家族と婦人

婦人問題の出発点は、常に、あなたの家族であり私の家族です。そして、その中心は夫と妻の関係でしょう。

ここで言う現代とは、戦後あるいは高度経済成長以後をさしますが、家族というものが、現代ほどめまぐるしく変化している時代はありません。

現代に生きるあなた自身や身近



な家族のあり方を見つめ直し、理解したことをこれからのあなたに生かして下さい。

### 市岡 修

静岡県立大学助教

専門 経済学

昭和二十年 富山県生まれ



### 今日の経済情勢と婦人

現代の女性は、ライフサイクルの変化や高学歴化などの影響で、男性よりも多様な行動パターンを選択できるようになりました。

パートタイム、配偶者特別控除等は、一見女性にとって好都合ですが、実は女性全体の未来にとってマイナスである点に注目して下さい。

これからの女性は冷静に客観的に各条件を把握して、自分に最適な行動計画を立ててほしいと思います。

### 佐藤 登美

静岡県立大学短期大学部教授

専門 成人看護学・精神看護学

昭和十六年 東京都生まれ



### 高齢化社会と婦人

四人で一人の高齢者を抱える日が近づいているというのに、自分だけはなんとかなると思っている人が多すぎます。

これからの老後は、病気の治療よりも在宅介護が主体になっていくでしょう。介護する人が絶対的に不足すること、豊かな時代に育った人々には介護に必要な技術や精神力が欠けていることなど考え合わせれば、もはや愛情や熱意だけで老人介護をこなすのは不可能です。妻や嫁だけでなく、地域や家庭全体で考え、学習していくべきでしょう。

### 受講者の声

○町の回覧板でこの講座を知り、

視野を広げたいと思ひ応募した。

三十代 浜岡町

○現在パートで働いているので学ぶ機会が少なく、通信講座ならできると思った。四十代 浜松市

○消費者活動を学習してきたが、一般的な婦人問題について理解を深めたい。五十代 浜松市

○婦人会の役員をしてみても、自分が学ばなければいけないと実感した。今後、ここで学んだことを地域の活動に生かしていきたい。六十代 裾野市

○昨年に続き二回目の受講です。婦人問題をもっと勉強したい。五十代 静岡市

―取材して―

式終了後、講師の方々に直接お話を伺い、ねっとわあくの読者にアドバイスをいただきました。

「とかく身の周りのことにとらわれ、近視眼的な見方しかできない女性が多いけれど、婦人問題を様々な角度から学習することによって社会全体が見えてくる。見えてきて初めて自分がどう生きるのか、今何をすべきなのかがわかるのではないか。」

それぞれ個性あふれる講師の先生方が、共通してこの点を強調されたのが印象的でした。